

句 評

陳清波

台湾川柳会

「恋」

第一席 遠回り君といるから恋の道

恋の道は、たとえ遠くても苦にはならず、かえって二人で道をつくっていく楽しさが増していくばかりです。

第二席 相合い傘昔は紙で今は肩

恋の相合傘が転じて、肩を並べて歩む関係へとランクアップしていくなら、それは愛の成熟を物語るものであり、嬉しい限りです。

第三席 「会いたい」の「あ」にだけ触れて止まる指

「あ」にだけ触れて止まる指は、まさにさまざまな愛の表現法を暗示している好句である。「あ」で始まる言葉を並べてみよう。

逢いたさ、見たさに怖さを忘れ、暗い夜道をただ一人……。

愛の翼で二人連れ立って、どこまでも飛んでいこう。

あなたの愛のささやきを聞きたいなあ……。

愛の言葉で人を励ませば、鞭打つよりも効果を奏する。

愛の囁きに、人は皆、酔いしれるものだ。